香川県農業試験場研究報告　第 41 号(1990 年 1 月)　1-5

基肥窒素施用法が水稲「黄金晴」の分げつ発生,収量に及ぼす影響

牧野義雄・白井美和・糸瀬貞義

香川県の水稲推奨品種「黄金晴」の基肥窒素施用法について検討した。

基肥窒素量を 10a 当たり 5 kg,7 kg,5 kg+早期追肥(窒素 2 kg)に設定し,水稲の生育状況,土壌溶液中に溶出する窒素などを調査した。

１.「黄金晴」の,分げつ期後期における分げつ増加数は,基肥 5 kg区に比べて基肥 7 kg区,早期追肥区で増加し,基肥 7 kg区が早期追肥区をやや上回った。分げつ期中期での土壌溶液中窒素濃度も分げつ増加数と同様の傾向を示した。また,各処理区での茎数の差は,2 次分げつ数の差によることが明らかになった。

２.「黄金晴」の穂数は,基肥 5 kg区に比べて基肥 7 kg区,早期追肥区で増加する傾向がみられ,基肥 7 kg区,早期追肥区は同じ値を示した。分げつ期後期での土壌溶液中窒素濃度も穂数と同様の傾向を示した。

３.「黄金晴」の 1 株当たり稔実籾重は,基肥 5kg 区に比べて基肥 7 kg区,早期追肥区で増加した。これは,穂数の差にそのまま影響されたと考えられた。